

奥能登マイコロ映像祭

日時：2019年10月19日(土)・20日(日) 10:00-19:00

会場：旧日置公民館(石川県珠洲市折戸町ト91)

入場料：無料



えいぞうゲイジユツ、
つてなーんだ？

ACCESS アクセス

旧日置公民館(きゅう ひきこうみんかん)
石川県珠洲市折戸町ト91

金沢から

●特急バス「珠洲特急」

金沢駅西口→道の駅すずなり(約3時間/1日5本)

[行き]始発8:00→10:54、10:40→13:34

[帰り]最終16:00→19:02

※一部抜粋

●自家用車、レンタカー

のと里山海道経由(約2時間30分)



のと里山空港から

羽田空港→のと里山空港(約1時間)→珠洲市内
+レンタカー・特急バス・乗り合いタクシー(約45分)

道の駅すずなり ⇄ 旧日置公民館

自家用車、レンタカー(約25分)

※駐車は近隣の日置ハウス、日置公民館をご利用ください。

19日限定 無料シャトルバス運行

[行き]道の駅すずなり→旧日置公民館

①9:20 ②11:00 ③13:40

[帰り]旧日置公民館→道の駅すずなり

④12:30 ⑤15:20

※②~⑤は、特急バス「珠洲特急線」と接続します。

STAY 宿泊案内 会場から歩いていける宿泊施設

滞在交流施設 日置ハウス[ドミトリー]

〒927-1446 石川県珠洲市折戸町ヌ部8番地

●料金：大人3,000円/1泊 大学生・高校生2,000円/1泊 ※素泊まりのみ

●HP: <https://hikihouseorito.wixsite.com/hikihouse>



CONTACT お問い合わせ

奥能登国際芸術祭実行委員会事務局

〒927-1214 石川県珠洲市飯田町13-120-1 TEL:0768-82-7720

Mail: info@oku-noto.jp 公式サイト: oku-noto.jp

○主催：奥能登国際芸術祭実行委員会 ○協賛：キャノン株式会社

○企画：さわひらき/木村悟之+明貫紘子(映像ワークショップ) ○協力：石川県立飯田高等学校

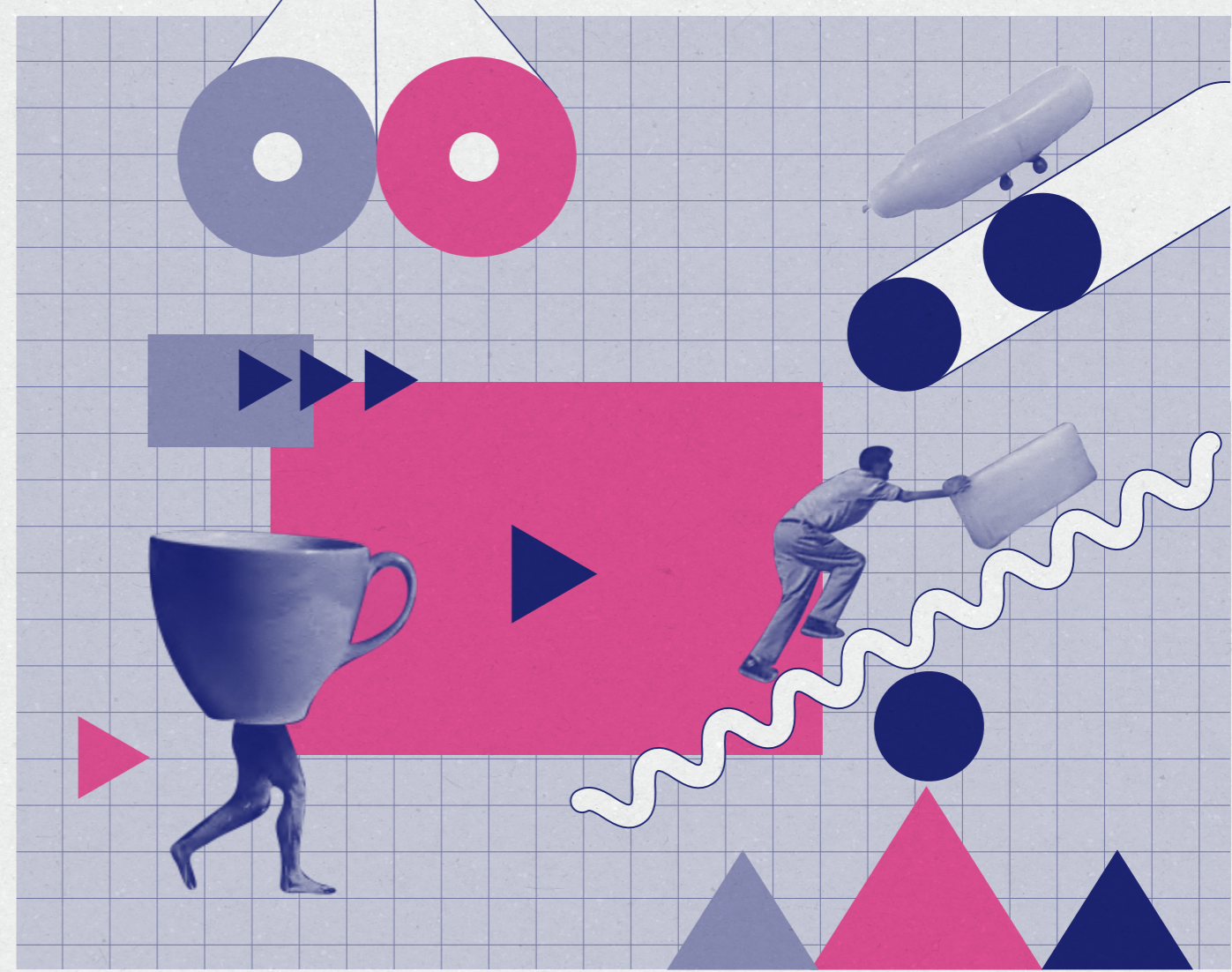


2019年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



奥能登マイコロ映像祭

2019 10/19 Sat - 20 Sun



会場：旧日置公民館(石川県珠洲市折戸町ト91) 主催：奥能登国際芸術祭実行委員会



奥能登国際芸術祭2017を開催した珠洲市では、
第二回目の開催となる奥能登国際芸術祭2020に向け
映像作家のさわひらきと木村悟之を迎え、
奥能登マイコロ映像祭を開催します。
映像祭では、作家と地元の高校に通う学生が制作した映像作品を、
上映とインスタレーションとして展開します。
その成果とともに国際的に活躍するアーティストらの映像作品を
さわひらき、木村悟之のトークも交えながら紹介し、
映像芸術に触れる楽しさをお伝えしていきます。
お子様からお年寄りまで、
それぞれがなにか楽しいことが見つかる映像祭です。
地元の食材を活かしたお料理やお飲み物を片手に
映像作品を鑑賞してみませんか？



奥能登
マイコロ
映像祭
10/19-20

PROGRAM 上映プログラム

*各プログラム上映後、ポストトークやQ&Aを設けます。

プログラム.1

コロコロコレクティブ

#01

▶▶▶ 飯田高校生《タイトル未定》2019

グループワークによって短いカットを
つなぎ合わせて制作した
高校生の映像作品。



ワークショップは「チェーンリアクション」と「モンタージュ」がテーマで
した。「チェーンリアクション」とは連鎖反応のことで、あるアクションが同
様のアクションを引き起こし、結果的にアクションが持続したり思わぬ展
開を及ぼすこと。さらに、「モンタージュ」とはフランス語で「組み立てる」と
いう意味で、映画技法では映像の断片を「編集」することによって、映像
上の現実を作り出すことです。1カット(最大15秒)をつなぎ合わせて、連
鎖反応がコロコロ展開していき、もうひとつの時空間が現れるような作
品を目指しました。

📍 石川県立飯田高等学校

珠洲市内唯一の高校で、今年度で創立107年目を迎えます。全校生徒は352
名(2019年9月現在)。普通科と総合学科の2学科を置き、地域と連携・密着し
た学びを展開しています。とくに、総合的な学習の時間(総合的な探究の時間)
における「ゆめかなプロジェクト」では、グループでの探究型学習を取り入れ、生
徒自らが地域資源を生かした新しい学びのかたちを創り上げています。

関連展示あり

19日(土)10:00/14:00・20日(日)14:00/16:00



プログラム.2

ダダ・シネマ

#02

19日(土)11:00~

▶▶▶ ダダイズムとダダイスト

1920年代に展開されたアーティストらによる
実験映画の代表作。

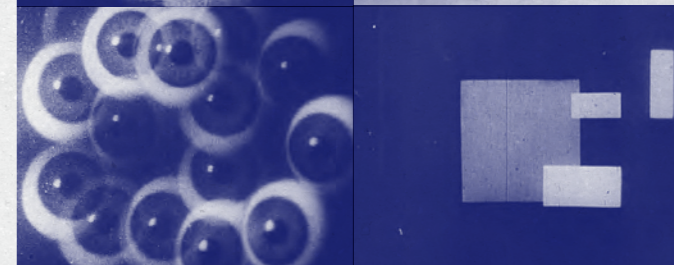
▶マン・レイ《理性への回帰》1923 2'00" b&w

▶ハンス・リヒター《リズム21》1921 3'30" b&w

▶ルネ・クレール《幕間》1924 20'00" b&w ほか

📍 ダダイズムとダダイスト

ダダ、あるいはダダイズムとは、第一次大戦中から戦後にかけてスイスの
チューリッヒで始まり、米国はニューヨーク、ドイツはベルリンやケルン、ハノー
ヴァーなど国際的に展開された芸術革命運動。既成の芸術の様々な意味や
価値が解体され、芸術を特別なものと位置づけている価値観に対する、否定、
攻撃、破壊といった思想が特徴的。ダダイズムに属する芸術家たちをダダイス
トとよぶ。ダダ・シネマはダダイストらによる映像作品。



プログラム.3

ビデオアートのパイオニア

▶▶▶ 北陸地方にゆかりのあるビデオアート先駆者による作品。

▶ 久保田成子《私のお父さん》



《私のお父さん》1973-75 15' 34" b&w
Courtesy Electronic Arts Intermix (EAI), New York.

久保田成子 (Kubota, Shigeko *1937-2015)
新潟県生まれ。1964年に東京・草月ホールでのナム・ジュン・パイクの公演に強い衝撃を受け、後にニューヨークで国際的前衛芸術運動である「フルクサス」に参加。後に、映像作品と、大学時代に学んだ彫刻の技術とを組み合わせたビデオ・スカルプチャーに転向。ドクメンタ(ドイツ、1977年/1987年)、ホイットニー・ビエンナーレ(米国、1983年)に出品。原美術館、ステデリック美術館、ホイットニー美術館などで個展。《階段を降りるヌード》(1976年)がニューヨーク近代美術館(MoMA)に収蔵。2021年に新潟県立近代美術館で回顧展を開催予定。

▶ 山本圭吾《Hand No.2》



《Hand No.2》1976 7' 50" b&w

山本圭吾 (Yamamoto, Keigo 1936-)
福井県生まれ。1960年代より火や煙を使用したパフォーマンスを経てビデオアート制作を行う。1970年代より通信と芸術の融合を前提にしたネットワークアートに取り組み、サンパウロビエンナーレ(ブラジル、1975年)では、通信によるゲーム作品を出品。さらに、ドクメンタ6(ドイツ、1977年)にて、その延長上のビデオアート作品を発表。その後も、ネットワークやビデオを使ったプロジェクトを発表し続ける。第18回文化庁メディア芸術祭功労賞を受賞。

▶ 中谷美二子《総持寺》



《総持寺》1979 18' 00" (excerpt) color

中谷美二子 (Nakaya, Fujiko 1933-)
北海道生まれ。米ノースウェスタン大学美術科を卒業後、初期の絵画制作を経て、芸術と技術の協働を推進する実験グループ「E. A. T.」に参加。「E. A. T.」の活動の一環として1970年の大阪万博ペシ館で、初めての人工霧による「霧の彫刻」を発表。環境への関心は、雪の結晶を世界で初めて人工的に作った実験物理学者の父、加賀市出身の中谷宇吉郎(1900-1962)の影響が大きい。最近の主な展示に「グリーンランド:中谷美二子+宇吉郎」(銀座メゾンエルメス フォーラム、2017-18年)、「霧の抵抗 中谷美二子」(水戸芸術館、2018-19年)がある。

▶ ナム・ジュン・パイク《永平寺讃歌》 1986 color

ナム・ジュン・パイク (Paik, Nam June *1932-2006)

ソウル生まれ。テレビ、ビデオなどを用いたパフォーマンス、インスタレーション、映像作品で知られる。東京で美術史、音楽史、哲学を、ドイツで音楽史、作曲を学んだ後、作曲家ジョン・ケージと出会いフルクサスへ参加。1960年代からテレビモニターで世界中の人々が同時に同じ映像、同じ時間を共有することのできるこの新しいメディアの可能性を早くから評価した。一方で、見る者が映像を一方向的に受け取るのではなく、その創造に主体的に加わることを重視した。《永平寺讃歌》は、永平寺の読経が録音されたレコードを聞いたパイクが実際に福井県を訪ね、福井放送の協力を得て制作した映像作品。

プログラム.4

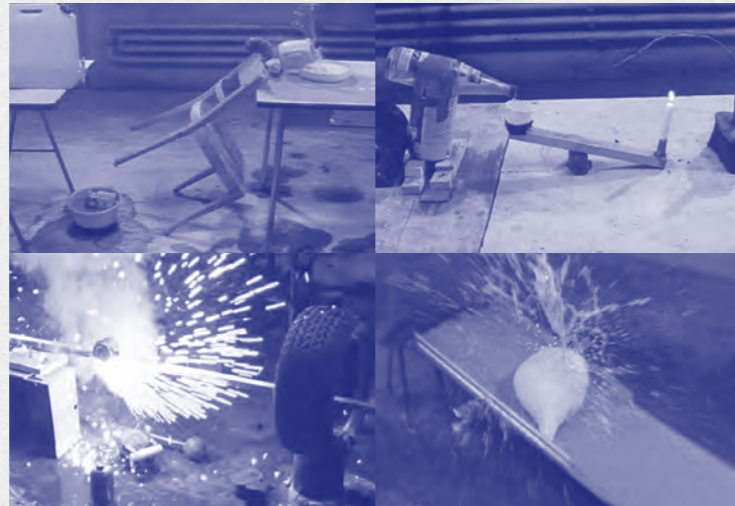
ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス

▶▶▶ 身の回りのモノの連鎖反応だけで紡がれた実験映画で、ピタゴラ装置を想起させる作品。

▶ 《事の次第》 1986-87 30' 00" colour

ペーター・フィッシュリ (Fischli, Peter 1952-)
ダヴィッド・ヴァイス (Weiss, David *1946-2012)

チューリヒ生まれ。スイスを代表するアーティスト・デュオ。1970年代末から活動を共にし、様々なメディアを柔軟に操り、日常をテーマに作品制作を行う。一つのシリーズ、モチーフに膨大な時間が費やされる表現には、極大と極小、平凡と非凡、道理と不条理、秩序と無秩序が混在し、新たな世界像が提示される。2003年「ヴェネチア・ビエンナーレ」で金獅子賞を受賞。



#03

19日(土)13:00~

プログラム.5-1

フランシス・アリス 1

▶▶▶ ビデオ空間の中で静かな政治的パフォーマンスを展開する現代作家の作品。

- ▶ 《Sometimes Making Something Leads to Nothing》1997 9' 54" color
- ▶ 《The Nightwatch》2004 6' 17" color
- ▶ 《Re-enactments》2000 5' 23" color
- ▶ 《Color Matching》2016 5' 01" color



プログラム.5-2

フランシス・アリス 2

▶▶▶ 「歩く」というシンプルなパフォーマンスから透けてみえる二つの対照的な町「ヴェネツィア」と「カブル」。

- ▶ 《Reel/Unreel》2011 19' 32" color
- ▶ 《Duett》1999 10' 55 color

20日(土)15:00~

フランシス・アリス (Alÿs, Francis 1959-)

アントワープ生まれ。メキシコシティ在住。ヴェネツィアで建築を学んだ後、1986年にメキシコに渡る。建築家として活動をはじめも80年代末よりアーティストとして作品制作を行う。都市の中を歩きまわり、そこから見えてくる日常に潜む問題をとらえて、作家が街なかで行うアクションから数百人の参加者をもとめた大規模なものまで、さまざまなプロジェクトを世界各地で実施。テート・モダン(2010年)、ニューヨーク近代美術館(2011年)、東京都現代美術館(2013年)、広島市現代美術館(2013年)で大規模な個展が巡回開催。



プログラム.6

さわひらき

▶▶▶ 奥能登国際芸術祭出展作家で国際的に活躍する現代作家の代表作品。

- ▶ 《dwelling》2002 9' 20" b&w
- ▶ 《Elsewhere》2003 7' 40" b&w
- ▶ 《Within》2010 7' 35" color
- ▶ 《Souvenir IV》3' 30" b&w
- ▶ 《Absent》2018 4' 40" color

さわひらき (Sawa, Hiraki 1977-)

石川県生まれ。ロンドン在住。自身の心象風景や記憶の中にある感覚といった実体のない領域を、映像・立体・平面作品などで構成されたビデオインスタレーションで表現する。映像や立体造形物を巧みに操り、現実にはありえない光景を描きながら、どこか親しみを感じさせる世界を展示空間に生み出し、見る者の想像力に働きかける。近年は映像の配置を彫刻的に捉えた空間構成や、立体や平面作品を併置させるなど、映像と展示空間とが互いの領域を交差するような作品に取り組んでいる。

関連展示あり

19日(土)10:00~/20日(日)16:00~



#06

プログラム.4

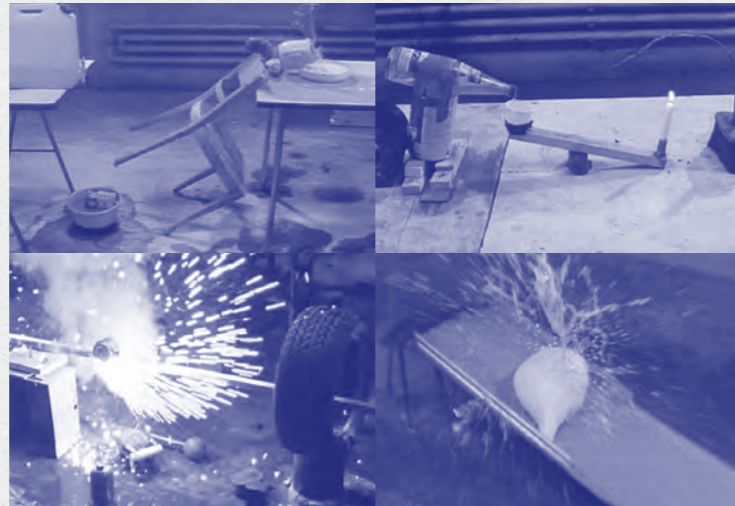
ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス

▶▶▶ 身の回りのモノの連鎖反応だけで紡がれた実験映画で、ピタゴラ装置を想起させる作品。

▶ 《事の次第》 1986-87 30' 00" colour

ペーター・フィッシュリ (Fischli, Peter 1952-)
ダヴィッド・ヴァイス (Weiss, David *1946-2012)

チューリヒ生まれ。スイスを代表するアーティスト・デュオ。1970年代末から活動を共にし、様々なメディアを柔軟に操り、日常をテーマに作品制作を行う。一つのシリーズ、モチーフに膨大な時間が費やされる表現には、極大と極小、平凡と非凡、道理と不条理、秩序と無秩序が混在し、新たな世界像が提示される。2003年「ヴェネチア・ビエンナーレ」で金獅子賞を受賞。



#04

19日(土)15:00~

プログラム.7

木村 悟之

▶▶▶ 天体の運行と果てしない時間軸をテーマにした現代作家の代表作品。

- ▶ 《切り通しの坂》2011 6' 00" color
- ▶ 《ウンザー・ハウス・フォー・ザ・ニュー・エラ》2013 5' 00" color
- ▶ 《ポリンキー》2017 8' 19" color

木村悟之 (Kimura, Noriyuki 1977-)

群馬県生まれ。石川県在住。撮影者を時間と場所、方向を決定するルールによって拘束し、移動によって変化する環境と撮影者の身体的反応によって展開する実写映像作品「軌跡映画」シリーズや、部屋を遮光したピンホールカメラの中で太陽光により長時間かけて投影される文字を収録し100倍速で再生した作品《CINEMA》(2015)など、パフォーマンスとその記録映像によって構成される作品を発表。第60回オーバー・ハウゼン国際短編映画祭や第18回文化庁メディア芸術祭などで受賞。



#07

19日(土)14:00~/20日(日)14:00~

#05

19日(土)17:00~

TALK トーク (インターネット中継予定)

10/19 18:00-

「映像が作品になるとき」 さわひらき / 木村悟之 / 明貴紘子 (モデレーター)

かつて、フィルムは映画館、ビデオはテレビ放送のように、映像を鑑賞する場は固定されていました。現在では、美術館での映像展示があたりまえになり、コンピュータやスマホでデジタル映像を閲覧することもできます。このような変化をふまえ、二人の映像作家が制作プロセスについて語り、映画やCM、ホームビデオなどと区別できる、映像が芸術になる地点について探ります。



明貴紘子 (Myokam, Hiroko 1976-)

石川県生まれ。石川県在住。能登出身の父と加賀出身の母の元でかほく育ちの石川ハーフ。高校を卒業してから、茨城、岐阜、埼玉、東京、ドイツを経由して石川県へ戻る。メディアアートという、美術分野の中でもマイナーなジャンルを専門に、NPO設立と運営、キュレーターとして展覧会やイベントを企画、研究者としてメディアアートの作品保存やアーカイブ構築のプロジェクトなどに国際的に従事。2020年2月に金沢21世紀美術館で1980年代の映像文化をめぐる上映会を企画。

EXHIBITION 展示

10/19・20 10:00-19:00

飯田高校生《タイトル未定》2019

ワークショップで制作した映像を使ったビデオインスタレーション展示

さわひらき作品展示

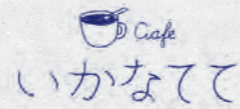
さわひらきの過去の映像作品のなかからループ上映展示

FOOD 出店

10/19・20 10:00-19:00 ※20日は飲み物のみ

Cafe いかなくて

2017年に狼煙町にオープンしたレコードショップに併設したCafe「いかなくて」です。「いかなくて」は奥能登の方言で「どういたしまして」のようなお礼に対して返す能登の人の優しさを表すような言葉で、この精神を忘れずに人に接していけたらと思っています。店主の創作スパイスカレーや地元の名店「ニミ味珈琲」がメインメニューとなっております。



奥能登すず体験宿泊施設 木ノ浦ビレッジ

木ノ浦ビレッジは、オーシャンビューのコテージがあり、採れたての地物食材をふんだんに使った食事、木ノ浦ならではの体験ができる宿です。当日は、珠洲の珪藻土コンロで地物の食材を炙って、パチパチと炭火の声を聞きながら、四季折々の美味しい地物の食材を色々な人に食べてほしいです。



>> **FOOD MENU**

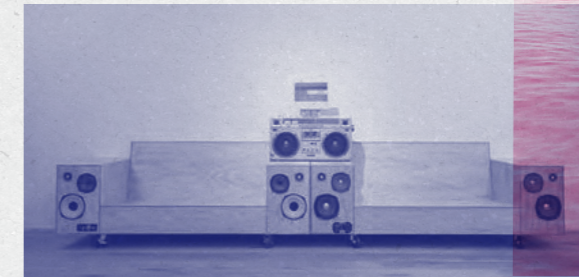
炭火で炙り炙られた能登牛の串焼き、ケールのディップを塗った炙ルスケッタ(ブルスケッタ)、ケールを使ったあったかいスープ、能登が大好きなチェコ人醸造家のクラフトビールをご用意します。

MUSIC ミュージック

10/19・20

Cafe いかなくてでは、レコードショップ「LIBRARY RECORDS」と併設されており、そこで取り扱っているカセットテープから、Mix Tapeを中心に当日上映する映像に合わせてセレクトした音楽を流します。ぜひお楽しみに!

- ▶ YD - desert (mix)
- ▶ Rockdown - Mumbo Jumbo (mix)
- ▶ mAsa niwayama - LOOKING FOR SUNRISE(mix)
- ▶ Jun Kitamura - infinite(mix)
- ▶ 空中水泳 - 世界の世界(album) など



上映スケジュール | *各プログラム上映後、ポストトークやQ&Aを設けます。各プログラムの間には10分程度の休憩があります

	10/19 sat	10/20 sun
10:00	プログラム1 / コロコロ コレクティブ プログラム6 / さわひらき	
11:00	プログラム2 / ダダ・シネマ	
12:00	(休憩)	
13:00	プログラム3 / ビデオアートのパイオニア	
14:00	プログラム1 / コロコロ コレクティブ プログラム7 / 木村悟之	プログラム1 / コロコロ コレクティブ プログラム7 / 木村悟之
15:00	プログラム4 / ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス	プログラム5-2 / フランシス・アリス2
16:00	(休憩)	プログラム1 / コロコロ コレクティブ プログラム6 / さわひらき
17:00	プログラム5-1 / フランシス・アリス1	
18:00	トーク / 「映像が作品になるとき」 さわひらき / 木村悟之 / 明貴紘子 (モデレーター)	
19:00		